

四国巡り一人旅（高知編Ⅱ）連載第8回

松原ときわクラブ 会計 保科紀一

13日目 6時起床、今日は昨日とうって変り 雲一つない快晴だ。歩くのには、もってこいの天気です。7時より朝食、食堂へ降りて行くと、けっこうな人がいるではないですか。隅のテーブルに着き「和食」を頼む、マアマアの食事でした。

食後、7時40分スタート。駅前の通りを東に向かい、どこかで右に折れるはず、適当なところで右折したら、1つ早く曲がってしまったらしく職業安定所のわきに出ってしまった。マア左に行けば目的地に着くだろう、しばらく歩くと、大きな橋が現れ、正解でした。青柳橋です、この橋を渡りすぐに左に曲がればよいはず。と思ったら、寺は山の上、この山は五台山といいます。

坂道を登ると、遍路道らしい狭い階段がある、登って行くと展望台に出た。この展望台のすぐ下が「第31番札所 竹林寺」です。境内に入ったら、ここは裏門でした。とりあえずお参りを済ませます。この寺は、よさこい節で有名な、はりまや橋でかんざしを買った、坊さんが居た寺だそうです。

さて、次の寺へ向かいます。次は「第32番札所 禅師峰寺」（ぜんじぶじ）です。ここからは、約6km やはり山の上にある寺です。途中までは、山道を歩き途中からは階段となり、遍路泣かせの登り道です。境内に入ると、右手に本堂、隣に太子堂が並んでいます。また境内からは太平洋をのぞむことができ、遠く桂浜を見ることができます。参拝を済ませ、次の寺へ向かいます。次は「第33番札所 雪蹊寺」（せっけいじ）行き方は2とおあります。1つは、渡し船で行くか、もう1つは、浦戸大橋を渡る新しい道です。今回は渡し船を利用します。

寺を下り、6kmほど歩き渡し船の発着所に着きます。船を待っていたら、ベテラン（6回目）の遍路さんが話かけてきた、『君ネ、君がこの遍路を終わったら、きっとまた来なくなるよ』と言う。（嘘だろう！コンナつらい思いをして、また着なくなるわけがネーヨ）と、内心思った。が 今考えると、遍路の言ったことは正しかった。

船は10分くらいで、対岸に着く。そこからは、1.5kmほど歩くと雪蹊寺となります。この寺は町中にあり、本尊は薬師如来で運慶作と言われていて、この寺も別名「運慶寺」とも言われているそうです。

今回はここまでとさせていただきます。宿は寺のすぐ前にあります。それでは、次回まで、**お元気で！**